

「新時代の幕開け！」上岡・山本・中川

「平成」が終わり、新元号「令和」になり早1カ月。みなさんは慣れましたか？例外的な業務が増えたりもあったかと思いますが、やはり新時代の幕開け！ワクワクしますね。当事務所にも新しい風を吹き込むべく2名の職員が加わっております。「昨年12月末に入所した山本です。福知山に来て十数年になります知らないことが多いです。」「5月に入所しました中川です。福知山に来て2カ月くらいになるのですが、これからいろいろ街を散策したいと思っています。」

受付やお電話で、笑顔で丁寧にお客様と所員との橋渡しをさせていただきます。よろしくお願いいたします。



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【休眠預金】

10年以上、口座に放置された預金のこと。預金者が口座の存在を忘れていたり、連絡が取れなくなっていたりすることが原因となっている。これらの預金を社会課題の解決や民間公益活動のために活用することを目的に「休眠預金等活用法」が制定された。2009年1月以降の最後の取り引きから10年以上、取り引きのない預金が対象となる。まずは移管先に準備金として積み立てられるが、預金者は気付いたときに引き出せる。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【変化を読み行動する力「田沼意次（おきつぐ）」】

江戸中期、財政再建を目指す幕府で老中として活躍した田沼意次は1719年に生まれました。全国的に農業技術が発達し、幕府の財源である米の値段



が下落して財政状況は悪くなるばかり。かたや商人が大きな富を得る時代でした。当時の8代将軍・徳川吉宗はこの状況を打開しようと儉約令を敷き、農民に対して年貢率を上げることを試みますが、めざましい成果を挙げることはできません。こうした状況下、事態を打開すべく幕府は家格にとらわれない多様な人材を登用するようになり、家柄はさほどではなかったものの高い能力を持っていた意次が登用され、将軍の側近として活躍、老中にまで出世したのでした。意次は幕府に予算制度を導入し無駄な支出を抑制する一方で、税制や貨幣制度を見直して市場経済の発展を図ります。と同時に『解体新書』に代表される医学や蘭学、国学など学問を振興しました。また庶民の娯楽から生まれた小説や川柳などの芸術の発展も促して、人々の生活が豊かになるよう尽力しました。さらに蝦夷（えぞ）地の豊かな資源に着目して調査を行い、その地を開発してロシアと貿易を行うことを構想するなど日本の国際化にも先見の明を持っていました。長らく賄賂にまみれた悪役のイメージだった意次でしたが、実はその真偽は不明とのこと。近年、意次の業績と手腕が改めて見直されているようです。

今を生きる 先人の言葉

芸術に完成は
あり得ない

日本の画家である奥村土牛（とぎゅう）の言葉。この後に「どこまで大きく未完成で終わるか」と続く。未完成だからこそ成長することができる。商売も同じだろう。

